

7 審査結果の意見・講評

令和5年度の水道事業会計を審査した結果、会計処理や決算事務について、一部に誤りが見られ、決算書や決算附属書類の修正を求めた。誤りには、転記ミスや記載漏れが散見され、その原因は、職員の確認不足・認識不足や、組織的な確認不足があったためとしており、職員の決算調製に対する意識の低さが感じられる。決算書類は、1年間の活動状況と経営成績、財政状況を示す書類として、調製後には議会の認定に付される重要な書類である。作成や確認作業の過程における不備をよく検証し、組織として十分な注意を持って決算の調製に当たられたい。

また、適法な手続きを踏まない事務が一部見られた。法令遵守は基本的な事項であり、職員は事務を行うにあたり、根拠となる関係法令等を熟知しておく必要がある。研修の充実や内部統制の強化などにより、再発防止に取り組まれたい。

(1) 事業概要

水道事業は、主に、老朽化している配水管等の更新及び耐震化など、安定給水のための事業を計画的に実施している。

本年度は、前年度に引き続き、ビニル製配水管をはじめとする経年配水管の更新や、老朽化した浄水施設機器の更新を行っている。配水本管の耐震化事業では、供用開始から60年以上を経過した南部配水本管について管路の更新に合わせて実施している。施設の老朽化対策では、放光寺浄水場2系2号沈殿池機械設備更新工事を行った。

また、経営安定に向けた取り組みとして、水道使用率が低い田主丸地区における配水管整備について、本年度から一時休止した。

(2) 経営成績及び財政状態

収益的収支については、総収益の増加以上に総費用が増加したため、純利益は前年度に比べて減少している。収益の中心である水道料金収入は3年ぶりに微増となっている。

経営指標については、ほとんどの指標が全国平均との比較では良好であるものの、経常収支比率、営業収支比率ともに4年連続で低下しており、給水原価も上昇傾向が続いている。今後も企業債償還が続くとともに、施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。余裕のある償還能力の確保に努められたい。

(3) 意見・講評

前年度との比較では、水道料金収入が1,325万6千円(0.3%)増加し、有収水量は約2万1,000 m^3 減少している。口径別料金収入については、小口径(家庭用)が引き続き減少し、大口径(主に事業用)は2年連続で増加している。令和3年度からの10年間を計画期間とする「久留米市上下水道事業経営戦略」では、人口減少や一人当たりの使用水量減少により給水量の減少傾向が続き、それに伴い料金収入も減少していくと推計している。一方、物価高騰による給水原価の上昇、老朽化した管路の大量更新や施設の耐震化での費用増大が見込まれ、今後の経営環境は厳しさを増すことが予測される。

また、田主丸地区の整備完了区域における水道使用率は現在も3割に達しておらず、事業収入の根幹である水道料金収入を確保し、経営安定に繋げるためにも、水道使用率向上は不可欠である。

近年の頻発する豪雨災害において、安定した水供給ができる点は、水道使用の利点であり、それらを積極的にPRするなど、同地区の水道使用率向上により一層取り組まれたい。

水道は、都市の基盤・市民のライフラインであり、将来にわたって安定的かつ持続的に事業を運

営していく必要がある。そのため、需要を見極めつつ、持続可能な投資計画等を立案し、事業の経営基盤強化に取り組まれることを望む。